

1 ツタンカーメンやクレオパトラも利用していた古い作物

日本では、ゴマはとても身近な食品だよね。あんまり身近に食べているものだから、なんだかとても和風な食べもののような気がするかもしれないけれど、じつは、ゴマのふるさとはアフリカなんだ。人類が文明を築きはじめた古代から、食品や薬として利用されてきた、とても古い作物なんだよ。エジプトの少年王ツタンカーメンや王女クレオパトラもゴマのお世話になっていたくらいだ。いったい人類とゴマとはどんなつきあい方をしてきたのかな？

農業のはじまりとともに

ゴマのふるさとは、アフリカのサハラ砂漠の近くのサバンナという雨の少ない乾燥した草原だろうと考えられているよ。大むかし、サバンナにすむアフリカの人は、草原に生える草のタネや根を採って食べていたんだ。やがて、これらを自分たちで育てて収穫するようになったのが農業のはじまりと考えられているよ。数千年以上もむかし、ゴマもこうして作物として栽培されるようになったんだね。ゴマの歴史は、世界各地の古代文明発祥の地に残されているよ。遺跡からはゴマが栽培されていた記録や炭化したタネなどがたくさん見つかったんだ。人類の文明が生まれたとき、すでにゴマは世界中で重要な作物だったんだね。

メソポタミア

世界最古の文明であるメソポタミアでは、ゴマは神々の時代から利用されてきたと言えられていたんだ。「国王の清め」の儀式や、農耕の季節のはじまりの祭礼で、神々に捧げたり、お清めにゴマ油が使われていたといわれるよ。お菓子や灯り用の油、軟膏などにも使われて、とても貴重な作物としてあつかわれたんだ。紀元前6世紀ごろの粘土板には、銀に代わってゴマで支払いをしたと記録されているから、お金代わりに使われたこともあったんだね。





古代エジプト

ゴマのふるさとに近いエジプトでは、ゴマは油や薬として大切にされたよ。古代エジプトのファラオ(王様)だったツタンカーメンの墓からは、黄金のマスクなどのさまざまな財宝といっしょに食べものを入れた壺も発掘されたんだ。その中のひとつからゴマが見つかっているよ。灯り用の油として使ったり、香料にしたり、ミイラをつくるときにも使ったらしいよ。クレオパトラは、肌を美しくするためにゴマ油をからだにぬっていたといわれているよ。

インド

インダス文明にもゴマは登場するよ。インド洋を越えてアフリカから、また陸伝いにメソポタミアを通じて栽培されるようになったゴマが、油や薬として使われていたんだね。いまでもインドにはたくさんの種類のゴマがあって、むかしから伝わるお祭りにゴマは欠かせないよ。ゴマを使ったお菓子をつくって先祖へのお供えにするんだ。またインドの古代医学「アーユルヴェーダ」にはゴマやゴマ油が薬としてたくさん出てくるよ。

中国から日本へ

中国では紀元前3000年ごろの遺跡からゴマが出土しているよ。1500年前にか書かれた「神農本草経」という漢方薬の本には、ゴマが不老不死の薬であると書かれてあるよ。日本では、縄文時代の遺跡からゴマが見つかっているんだ。おそらく中国から伝わって、高級な油として利用されていたようだね。

